

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 1 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26560021

研究課題名(和文)高齢者の安心と若者の未来を支える異世代間交流プログラムの開発

研究課題名(英文)Development of intergenerational interaction to provide security to the elderly and the future of the youth

研究代表者

片桐 恵子 (KATAGIRI, Keiko)

神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：80591742

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：血縁・地縁の弱体化により、高齢者が安心して住み慣れた地域に住み続けるためには、血縁・地縁以外に高齢者を支える仕組みが必要である。本研究では高齢者の家に若者が同居するホームシェア・プログラムを取り上げ、日本での有効性を検討した。

第一に住民調査により、高齢者は若者との交流を望むが若者は望んでいないため、若者への動機づけの必要性があること、第二に異世代間コミュニケーション実験を行い、場の設定が交流の活発さに影響することを明らかにした。第三に高齢者インタビューや同プログラムの実施者の会議の結果、中立公正な仲介者が必要なこと、若者に魅力的な借り手と貸し手の事前の取決めが重要であることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Japan, the most aged society in the world, is experiencing a rapid increase in the number of senior households. With younger family members moving far away and communities lacking social interaction, many elderly individuals and couples are unable to continue living in their homes. This study focuses on "Homeshare," a program that encourages young people to live in the elderly's homes and examines the possibility of effectively introducing this in Japan. First, a social survey of urban dwellers showed that motivation for intergenerational changes was higher among the elderly, suggesting that strong incentives for younger individuals is necessary. Second, communication experiments conclude that setting has an important effect on intergenerational communication. Finally, a fair and neutral agency acting as a facilitator for arrangements between the two generations would ease the process of cohabiting in the form of Homeshare.

研究分野：社会老年学、社会心理学

キーワード：異世代間交流 コミュニケーション ホームシェア 社会的孤独

### 1. 研究開始当初の背景

高齢単身世帯、高齢夫婦のみ高齢者世帯の増加が近年著しい。2014年には高齢者のいる世帯のうち56%にのぼる。これから特に後期高齢人口の増加が予想され、住み慣れた自宅でできるだけ住み続けられる社会の実現が求められている。しかし、血縁・地縁の弱体化が指摘される現在、高齢者が安全・安心に住み続けるには外部からのサポートが必要とされる。

### 2. 研究の目的

本研究は孤立しがちな高齢者と若者の交流を図ることにより、問題の解決を図ることを目的としている。具体的には

- (1) 高齢者と学生が共棲するホームシェア・プログラムの日本への導入を試み、問題点を把握し日本に合うシステムを検討する。
- (2) 高齢者と若者の有効な交流促進方法について検討する。

### 3. 研究の方法

- (1) 神戸市鶴甲住民に対する悉皆調査とインタビュー調査により、世代間交流についての態度を世代・男女別に把握する
- (2) 3つの異なる場面を設定し、同世代、異世代間のコミュニケーション行動が場の設定によってどのように異なるかを検討する
- (3) 日本においてホームシェアプログラムを実施している主催者とともに、運用上の問題点や成功に導く方略について検討する。

### 4. 研究成果

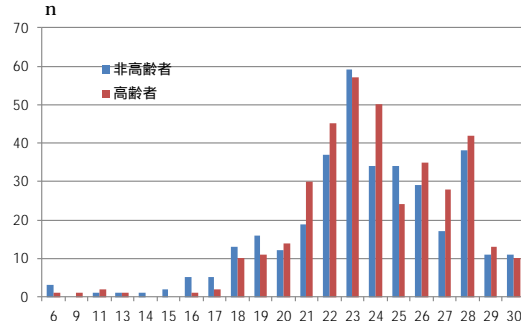


図1 異世代間交流志向(高齢者群と非高齢者群の比較)

(1) 異世代間交流志向は年齢により差がみられ(図1)、高齢者の方が若い世代より高かった。若者に高齢者との交流プログラムに参加を求めるには、インセンティブが必要であることが示唆された。

インタビュー調査の結果では、高齢者は若い世代と交流したいという気持ちは強いものの、同居ではなく、集合住宅であれば同じ建物、或いは近所に若い人が住んでほしいと考えていることが明らかになった。

また異世代間交流志向は、ソーシャル・キャピタルに関連する指標とも相関が高く(表1)、単に若い世代とかかわりたいだけではなく、広く地域社会や地域の人とかかわりたいという志向性と関連することが示唆された。

表1 異世代間交流志向とソーシャル・キャピタル関連指標との相関

	(1)	(2)	(3)	(4)
(1) Intergenerational Interaction orientation				
(2) Social participation(1=yes,0=no)	.263***			
(3) General trust (5-20)	.303***	.101**		
(4) Political behavior (3-12)	.339***	.159***	.180***	
(5) Community contribution orientation(1=yes,0=no)	.452***	.176***	.196***	.286***

Note. \*\* p < .01, \*\*\* p < 0.001

(2) コミュニケーション実験の結果では、場の設定によりコミュニケーションの活発さに違いがあること、同世代は異世代より活発なコミュニケーションになることが判明した。異世代間コミュニケーションを図るには、場の設定が重要であることが判明した。

(3) 日本におけるホームシェアプログラム主催者が一堂に集まり、第1回日本ホームシェア会議を開催した。日本におけるホームシェアプログラムの実施者は少しずつ増えているとはいえ、全国で未だ10例程度であるという評価は得られるようになったが、実際は日本の住宅事情や個人志向の進行、或いは別居の家族の反対など現実にはなかなか浸透しない状況が明らかになった。成功させるには、大学や自治体など公共性の高い中立的な組織が介在することが、プログラムへの信頼性を高めることが明らかになった。また

貸し手（高齢者）と借り手（若者）の事前の  
取り決めも重要であった。各プログラム主催  
者は様々な工夫もしていることも明らかにな  
った、また新規にプログラムを始めたいと  
いう地方自治体などもあり、ホームシェアの  
ネットワークを構築し、有用な情報を共有す  
ることの重要性を確認した。今後はネットワ  
ークを構築して連携を深め、次回の世界ホ  
ームシェア会議の日本開催を目指すことを約  
した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

片桐恵子・久保田裕之、高齢者の安心と若  
者の未来を支える異世代間プログラムの開  
発、地域ケアリング、査読無、Vol.17、2016、  
pp. 42-45

久保田裕之、シェアハウス(特集シェア社  
会:新たなつながりをもとめて)、Re:、査読無  
Vol.38、No.1、pp. 44-47

久保田裕之・門脇耕二、「コミュニティ幻  
想」を超えて一職住一体から考える住まい/  
家族/家庭経済/地域社会、新建築住宅特集  
Vol.365 pp.18-23

〔学会発表〕(計 15 件)

久保田裕之、ホーンテッド・マンションー  
空き家シェア活用を阻む家族規範と終わら  
ない親役割、第 65 回関西社会学会、2014.5.24.  
富山大学（富山県）

片桐恵子、世代間交流～高齢者の社会参加  
の観点から～、関西学院大学応用心理科学研  
究センターシンポジウム、2014.6.28. 関西学

院大学（兵庫県）

久保田裕之、家族を超える共同性 - 家族的  
交換と非家族的贈与、第 12 回福祉社会学会  
2014.6.29. 東洋大学（東京都）

片桐恵子・竹中優子・近藤徳彦・長ヶ原誠・  
増本康平・朴木佳緒留、地域住民における世  
代間交流志向の関連要因～神戸市灘区鶴甲  
地域住民調査～、日本社会心理学会第 55 回  
大会、2014.7.27.北海道大学（北海道）

久保田裕之、家族の民主化と脱政治化 - 合  
議体としての<民主的>家族、第 25 回日本家  
族社会学会大会、2014.9.6.東京女子大学（東  
京都）

Keiko Katagiri、Exploring the Role of  
Intergenerational Relationships between older  
and younger people in Japan for Cultural, Social  
and Economic Development、Dublin City  
University 講演会、2015.3.2. Dublin City  
University（アイルランド）

久保田裕之、社会調査における世帯と家族、  
第 26 回日本家族社会学会大会 2015.9.5.  
追手門学院大学(大阪府)

久保田裕之、「脱法ハウス」問題にみる法  
的住宅概念と家族モデル、第 88 回日本社会  
学会、2015.9.19. 早稲田大学(東京都)

Keiko Katagiri、Can intergenerational  
interaction provide a Substitute for Young Family  
Members? Evidence from Urban Areas Japan、  
The10th IAGG Asia/Oceania Regional Congress、  
2015.10.19、チェンマイ(タイ)

Kubota,Hiroyuki., Kazuyo Sonohara、  
Homesharing in Japanese Context in 2015、

4<sup>th</sup> International Homeshare Congress,  
2015.11.5、メルボルン（オーストラリア）

Keiko Katagiri, Does Intergenerational Interaction Promote Social Capital? Evidence from Urban Areas Japan, The 68<sup>th</sup> GSA Annual Scientific Meeting 2015. 11.19、オーランド（アメリカ）

Keiko Katagiri, Kouhei Masumoto, Shuichi Okada, Narihiko Kondo, Makoto Chogahara, Ai Fukuzawa, Interventions may increase community interactions among elderly adults: Evidence from an urban area in Japan, The 31<sup>st</sup> International Congress of Psychology 2016.7.25, Yokohama（神奈川県）

久保田裕之、共同生活と集合的意思決定、日本政治学会 2016 年度総会・研究大会、2016.10.2、立命館大学（大阪府）

久保田裕之、非対称なニーズをめぐる互酬関係、第 89 回日本社会学会大会、2016.10.8、九州大学（福岡県）

久保田裕之、日本におけるホームシェアの可能性と困難、日本老年社会科学会第 59 回大会(招待講演)、2017.6.14、名古屋国際会議場（愛知県）

〔図書〕(計 7 件)

平松誠・久保田裕之、大阪大学出版会「高校生の非正規雇用リスク認知」 in 友枝敏雄編『リスク社会を生きる若者たち』2015 250 (147-165)

久保田裕之 有斐閣、「家族なぜ少子高齢社会が問題となるのか」 in 本田由紀編『現代

社会論 - 社会学で探る私たちの生き方』、2015、220 (103-130)

久保田裕之、世界思想社、「シェアする共同生活とジェンダー役割」 in 伊藤公雄・牟田和恵編『[全訂新版]ジェンダーで学ぶ社会学』、2015、264 (130-145)

Keiko Katagiri& Tomoko Wakui, Springer, 「The Road to Successful Aging: Older Adults and their families in Japan」 in Sheung Tak Cheng, Iris Chi, Helene H. Fung, Lydia W. Li, Jean Woo (Eds.), 『Successful Aging: Asian Perspectives』 2015、349 (123-146)

久保田裕之、ナカニシヤ出版、「共同生活体としての家族」 in 藤田尚志・宮野真生子編、『家族 - 共に生きる形とは?』 2016、262 (142-171)

片桐恵子、福村出版、「夫婦にとっての職業からの引退」 in 宇都宮博・神谷哲司編『夫と妻の生涯発達心理学』、2016、310 (294-299)

片桐恵子、ミネルヴァ書房、「高齢期の働き方と生涯発達」 in 森玲奈編『「ラーニングフルエイジングとは何か—超高齢社会における学びの可能性』、2017、226 (49-63)

〔その他〕

・一般向け講演

久保田裕之、シェアハウスの暮らし方と魅力、NPO 法人おひとりさま連続講演会、2014.6.7、ウインクあいち（愛知県）

久保田裕之、世界で広がるホームシェア、NPO 法人ハートウォーミングハウス・ホームシェアがよく分かる講演と三回連続講座、

2014.9.3、成城ホール（東京都）

久保田裕之、高齢者の住まい方 - シェアハウスは高齢者の見守りになるか?。下関ホームイ市民福祉講座、2014.12.6、下関市社会福祉センター（山口県）

久保田裕之、片桐恵子、第 1 回 日本ホームシェア会議「日本におけるホームシェアの普及に向けて」2016.12.11、（日本大学、東京都）

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

片桐 恵子 （Keiko Katagiri）

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：8059174

### (2)研究分担者

久保田 裕之 （Hiroyuki Kubota）

日本大学・社会学部・准教授

研究者番号：40585808